

# 斑鳩町竜田神社の氏子区域にみる祭礼の諸相 服部と北庄の場合 大宮守人

Aspects of Religious Services as Seen through the Section for Shrine Parishioners in the *Tatsuta-jinja Shrine of Ikaruga-cho*

はじめに

- ① 竜田神社
- ② 服部の宮座と祭礼
- ③ 龍田北庄 春日神社の宮座
- ④ 宮座の変貌と不変の条件

## 〔論文要旨〕

服部は法隆寺の南約一キロ、北庄（龍田北）は西北約一キロにある。どちらも集落内に小社や寺を持ち、また小社の祭祀組織として宮座をもった伝統的な景観の村落である。

しかし、景観を詳細にみれば北庄は法隆寺の後背をなす矢田丘陵の南端部に掛かり山田の発達する小山間であり、服部は排水に苦勞する低地に盛り土した環壕集落の一種である。二集落とも都市化の波に洗われて新興住宅の中に埋もれんとする現状ながら今日からうじて維持されている祭祀組織と祭礼の差異には留意すべき点が認められる。

斑鳩一円の郷社的存在であった竜田神社（新宮）の祭礼に、かつてはとも奉仕した二集落であったが、今日では北庄の元宮座（春日講）のみが伝統的な衣装や御供で竜田参り（竜田神社の例祭への参加）を続けている。

近代化のなかで生じた二集落の祭礼の差異は祭祀組織の持つ資産の有無が誘因となつて醸し出されたものと見られ、社会生活としての祭礼の近未来に示唆を与えるものである。ここでは現状の祭礼民俗を概観して当該地域文化の変容過程理解への一端としたい。

なお、この地域には寺社・村落関連の古文書・古記録が豊富で民俗の変容過程を時系列として注意深くとらえることも学際的取り組みをもってすれば可能であり、特に新発見の斑鳩町服部神楽講文書の整理調査・解説・研究によってこの地域の宮座等の理解の精度が飛躍的に向上した（蘭部・大宮守友論文参照）。

また、関係資料等として、御官司家文書（龍田）と福貴田家文書（服部）を共同研究として整理調査・目録作成し、今後の研究に資することができた。